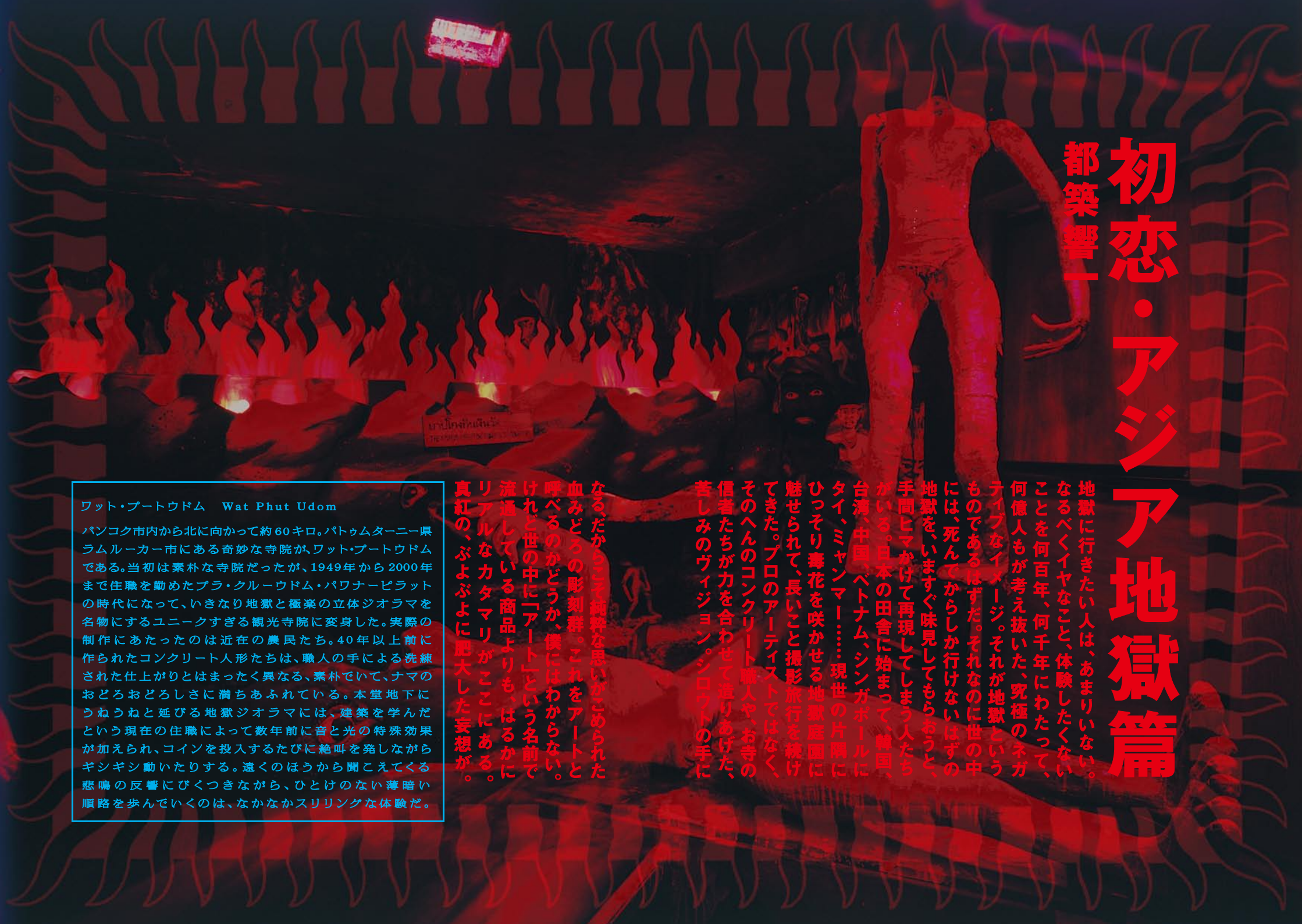
JAGDA

Japan Graphic Designers Association Report

183



初恋・アジア地獄篇

都築響一

地獄に行きたい人は、あまりいない。なるべくイヤなこと、体験したくないことを何百年、何千年にわたって、何億人もが考え抜いた、究極のネガティブなイメージ。それが地獄というものであるはずだ。それなのに世の中には、死んでからしか行けないはずの地獄を、いますぐ味見してもらおうと、手間ヒマかけて再現してしまう人たちがいる。日本の田舎に始まって、韓国、台湾、中国、ベトナム、シンガポールにタイ、ミャンマー……現世の片隅にひっそり毒花を咲かせる地獄庭園に魅せられて、長いこと撮影旅行を続けてきた。プロのアーティストではなく、そのへんのコンクリート職人や、お寺の信者たちが力を合わせて造りあげた、苦しみのヴィジョン。シロウトの手になるだからこそ純粋な思いがこめられた血みどろの彫刻群。これをアートと呼べるのかどうか、僕にはわからない。けれど世の中に「アート」という名前で流通している商品よりも、はるかにリアルなカタマリがここにある。真紅の、ぶよぶよに肥大した妄想が。

ワット・プートウドム　Wat Phut Udom

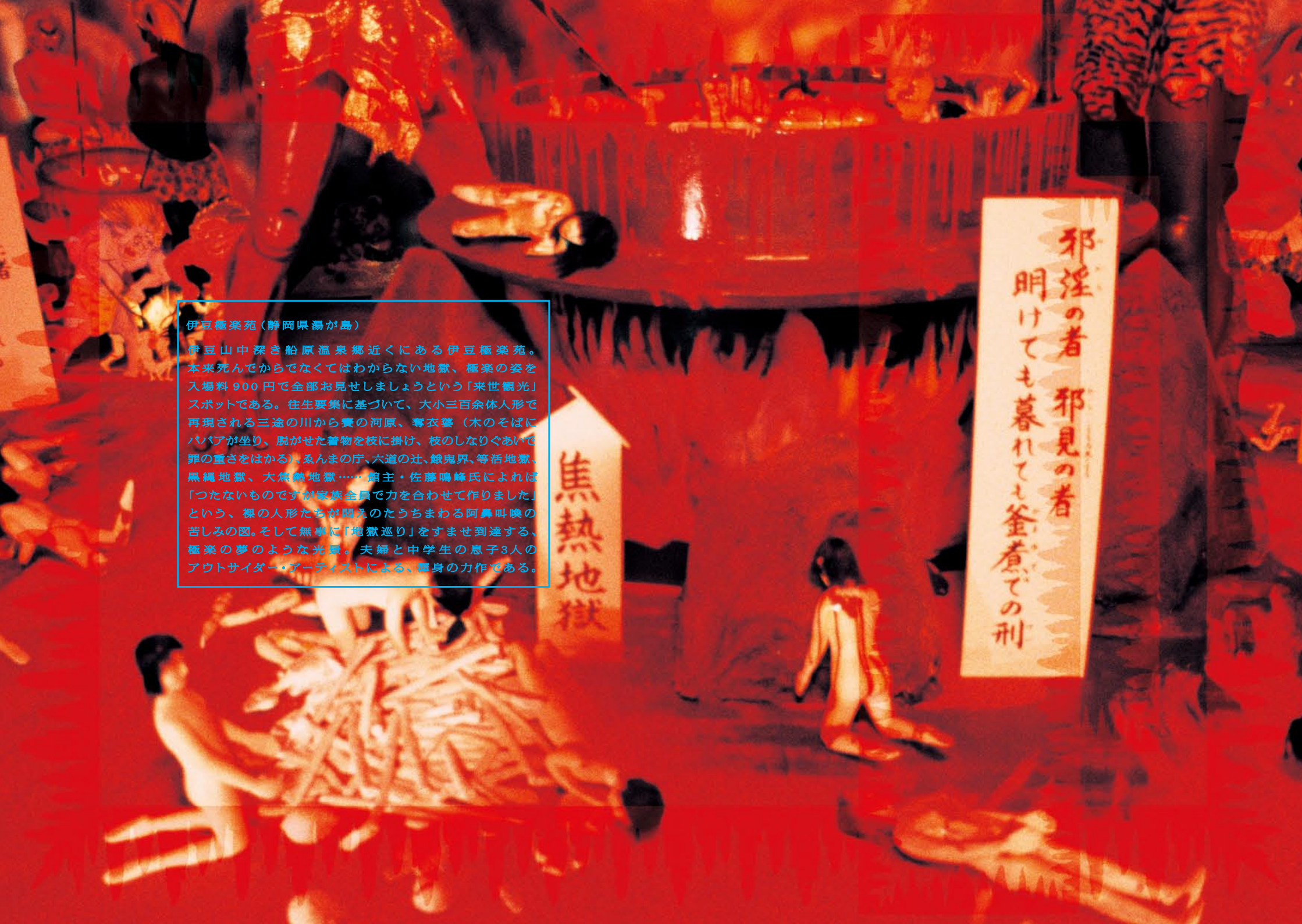
バンコク市内から北に向かって約60キロ。パトゥムターニー県ラムルーカー市にある奇妙な寺院が、ワット・プートウドムである。当初は素朴な寺院だったが、1949年から2000年まで住職を勤めたプラ・クルーウドム・パワナーピラットの時代になって、いきなり地獄と極楽の立体ジオラマを名物にするユニークすぎる観光寺院に変身した。実際の制作にあたったのは近在の農民たち。40年以上前に作られたコンクリート人形たちは、職人の手による洗練された仕上がりとはまったく異なる、素朴でいて、ナマのおどろおどろしさに満ちあふれている。本堂地下にうねうねと延びる地獄ジオラマには、建築を学んだという現在の住職によって数年前に音と光の特殊効果が加えられ、コインを投入するたびに絶叫を発しながらギシギシ動いたりする。遠くのほうから聞こえてくる悲鳴の反響にびくつきながら、ひとけのない薄暗い順路を歩んでいくのは、なかなかスリリングな体験だ。

タイガーバーム・ガーデンズ（ハウパー・ヴィラ）
Tiger Balm Gardens（虎豹別墅 Haw Par Villa）

胡文虎（Aw Boon How 1882～1954）と胡文豹（Aw Boo Par 1888～1944）の兄弟が築いた万能軟膏タイガーバーム帝国。ミャンマー（ビルマ）のヤンゴンで華僑の漢方薬屋に生まれたふたりの兄弟が、タイガーバーム（萬金油）の発明で億万長者にのし上がったのはすでに戦前のこと。1926年には拠点をシンガポールに移し、32年に香港進出。豊富な資金をもとに「伝統的な中国の神話や道教の教えを説く、啓蒙の場所」として35年にタイガーバーム・ガーデン香港を開き、2年後の37年にはシンガポールにも同様のガーデンをオープンさせた。戦争の動乱を乗り越え細々と運営されていたガーデンだが、1985年に香港のガーデンは閉鎖。シンガポールも所有者が幾度も変わるなど閉園の危機にさらされたが、現在はきれいに整備された有料庭園として一般公開されている。中国的、というかアジア的な怪奇幻想の世界を、カラフルに塗りたくられたコンクリート彫刻で思うさま開花させたその空間は、香港のガーデンが姿を消したいま、世界に類を見ないグレードと密度の立体芸術として孤高の輝きを放っている。

チャオ・メー・タプティム　Chao Mae Tuptim

バンコク中心部、大使館が建ち並ぶワイヤレス・ロードに面したナイラート・ホテル（旧ヒルトン）の裏手に隠れているのが『チャオ・メー・タプティム』と呼ばれる男根神社である。昔から豊穣と安産を願う地元住民の信仰を集めてきたが、お洒落ホテルとしてはあまり宣伝したくないらしく、スタッフに道を尋ねながらホテルのバックヤードを抜けていかないと、この小さなピザール・スポットに到達できない。つねに掃き清められ、花が献じられている祠の周囲には、色も形もサイズもさまざまな、しかしどれも立派な男根が無数に佇立している。鮮やかな布を巻つけられてニョキニョキと地面から生えている風情の巨大男根の群生。そのほとんどが真紅（タプティムとはタイ語でザクロのこと）に塗りたくられているのは、タントラの教えにおいて、もっとも重要な再生の儀式のひとつである、生理中の女性（性エネルギーがピークに達するとされる）との性行為をあらわす象徴だという説がある。



伊豆極楽苑（静岡県湯が島）

伊豆山中深き船原温泉郷近くにある伊豆極楽苑。本来死んでからでなくてはわからない地獄、極楽の姿を入場料900円で全部お見せしましょうという「来世観光」スポットである。往生要集に基づいて、大小三百余体人形で再現される三途の川から賽の河原、奪衣婆（木のそばにババアが坐り、脱がせた着物を枝に掛け、枝のしなりぐあいで罪の重さをはかる）、ゑんまの庁、六道の辻、餓鬼界、等活地獄、黒縄地獄、大焦熱地獄……館主・佐藤鳴峰氏によれば「つたないものですが家族全員で力を合わせて作りました」という、裸の人形たちが閻魔のたうちまわる阿鼻叫喚の苦しみの図。そして無事に「地獄巡り」をすませ到達する、極楽の夢のような光景。夫婦と中学生の息子3人のアウトサイダー・アーティストによる、渾身の力作である。

JAGDA REPORT vol.183 特別号「ジャグダ」 目次

大特集

赤ジャグダ

色のなかでもひときわ気になる赤を、「ジャグダ」流に料理したら……

巻頭

初恋・アジア地獄篇

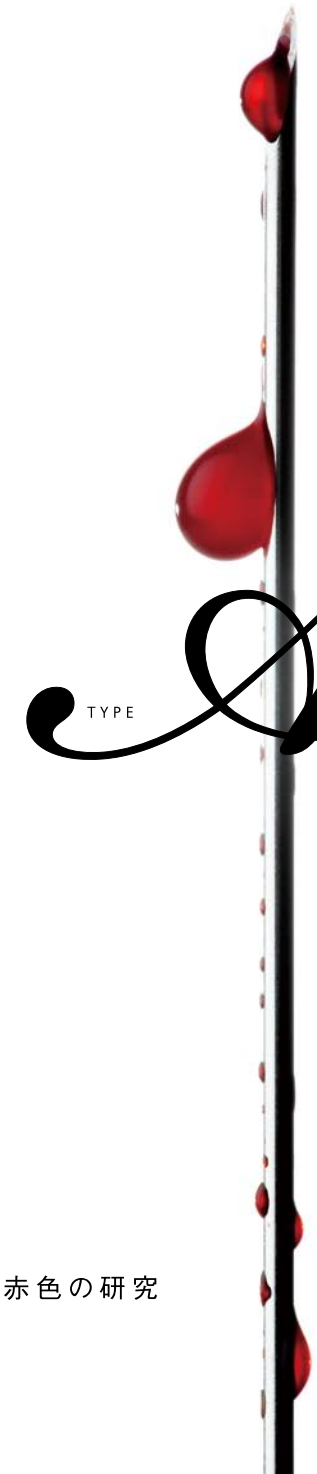
都築響一

血液型による赤色の研究 10
赤いご祝儀袋 大滝秀治 16
赤ずきん 22
それが赤でなかったとしたら。 28
あの赤はこんな赤 —Red in Image 34
酒場の赤 40
アササン（朝の散歩）の赤 46
デザインの赤字 松永 真　仲條正義 52
赤ちょうちんと歌謡曲 58
赭衣〜しゃい〜 64
ニュースな赤！ 68

赤色文庫
1 岡本太郎 14
2 田中一光 20
3 マルセル・プルースト 26
4 亀倉雄策 32
5 澁澤龍彦 38
6 赤いコピー 44
7 長友啓典 50
8 有吉佐和子 56
9 内田百閒 62

I've Sent Mail. 70
展覧会告知「POST 切手」 72
JAGDA！HUBダ！ 75

真っ直ぐな、赤。

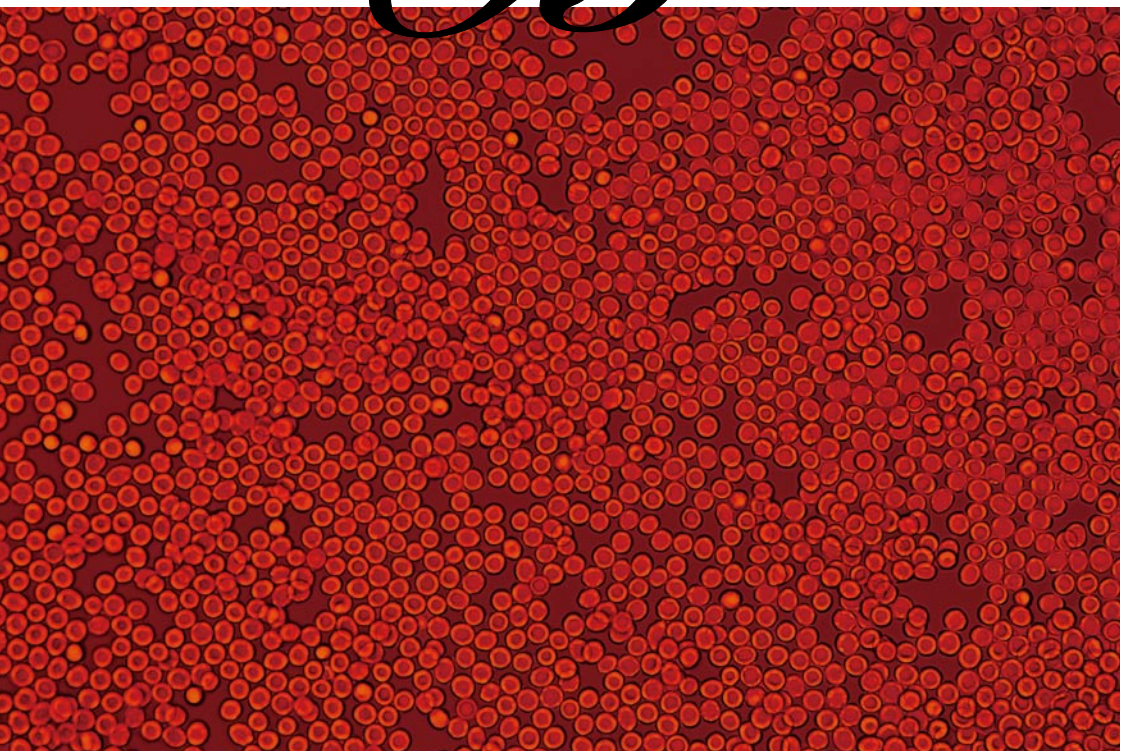


TYPE A RH+/RH-

血液型による赤色の研究

おおざっぱな、赤。

TYPE B RH+/RH-



予想外な、赤。

TYPE AB RH+/RH-

Photo : Getty Images

さっぱりした、赤。

TYPE O RH+/RH-

赤色文庫　1

私は作品のなかに原色の赤をよく使う。
子供の時から、なぜか好きな色だった。
赤は激しい情熱をほとばしらせる。
なまなましい、生命そのものの色だ。
と同時に、それは鮮血の色。

危険、不吉、死を思わせる。
それが一体になっているのだ。
だからこそ「赤」は、
ただおめでたい、甘い、
きれいな彩りではなくて、
激しく挑発する、戦慄的な実在である。

岡本太郎
「赤色が象徴する『生』と『死』」
『眼　美しく怒れ』チクマ秀版社刊より

當祝
三越劇場
94年9月公演
怒りのぶどう
原作＝J・スタインベック　演出＝渡辺浩子
劇団民藝提携作品
銀座セゾン劇場
吉岡太様
喜劇の殿さん
劇団民藝提携公演
平成十八年十二月
炎の人
昭和四十四年　月廿六日
大滝秀治様
火山灰地
第一部　第二部
劇団民藝
伊藤聡様
セールスマンの死
大瀧秀治様
浅草物語
審判
神と人とのあいだ　第一部
グレイ　クリスマス
斎藤憐／作　渡辺浩子／演出
五條家の人びと
一九九九年
一月二十九日～二月十一日
紀伊國屋サザンシアター
平成十六年十二月十九日
平成十五年十二月
平成二年十・十一月
劇団民藝創立四〇周年記念
どん底

赤いご祝儀袋

一九五七年頃、ある人から携帯用の硯をいただきました。とても高価な物で、大事にするために、とっておいた大入り袋を貼り合わせて硯のケースを作ったんです。『炎の人』『五稜郭血書』『民衆の敵』『日本の気象』『セールスマンの死』。一九五一年から五四年にかけての、劇団民藝が創立から間もない頃の代表作ばかり。裏側には『巌頭の女』（五二年）という芝居で僕が演じた「上田」の似顔絵を、主演の清水（将夫）さんが書いて下さった絵があります。半世紀以上経った今では、大変貴重な物になりました。芝居の題名と僕の名前が入った大入り袋は思い出深くて、こうして見ると懐かしい物です。どれもきっとどこかにしまってあるでしょうね。

俳優［劇団民藝］

大滝秀治

Photo : Keizo Kioku

赤は不安定な性質をもった色である。常に色が動くのである。けばけばした下品さを警戒しながら眺めていると意外な美しさを発見する。また、赤の美しさに魅せられていると突然、通俗で刺激的でたまらない気がしてくるのだ。青や黄色は平面に定位しやすいが、赤は隣にくる色によって大きく変化する。例えば、白の上の赤と、青と対比させた赤とを比べればよくわかる。まるで異なった世界が出現するからである。

むろん、一方は無彩色で、片方の青は補色に近いためかもしれない。しかし、単にそのような色彩学的配色の美的効果ばかりで計りきれないものが赤には残るのである。大げさに言えば、赤は他のどの色よりもそれぞれの風土や文化的背景を濃厚に宿していると言える。

赤は火の色であり、血液の色でもあり、生理的に最も刺激的な色彩でもある。それがために、あらゆる人間の深い内的なものを背負っている色なのかもしれない。古代オリエント、インド、中国、日本などいずれの国の歴史の中でも、赤は呪いの要素として発展してきたと言われている。赤は人間にとって生命の象徴なのである。

僕が赤を一番美しいと感じるのは、やはり、白か黒と隣り合った時である。赤は突然日本的様相に転じ、濃密な江戸期の情感を噴出する。

田中一光
「赤に対する白と黒」
『デザインの周辺』白水社刊より

赤ずきん

シャルル・ペロー 原作

定松 正 訳

photo
Masaaki Tanaka
styling
Kyoko Amano
(L'OPERA)
hair & make
Mitsuhiro Minamitsuji
(complice)
model
Mari Tokuyama
(Folio-modelagency)

むかし、むかし……

ある村にひとりの女の子がいました。それはそれはかわいい女の子でした。

お母さんは、その子をとてもかわいがっていました。

でも、おばあさんのかわいがりようったら、お母さん以上でした。

やさしいおばあさんは、その子に小さな赤いずきんをつくってあげました。

それがその子にとてもよくにあうので、みんなはその子のことを赤ずきんとよんでいました。

ある日のこと、お母さんはおかしをつくって、その子にいいました。

「ねえ、おばあちゃんのようすを見てきておくれ。お体のぐあいが悪いそうだからね。おかしをひとつと、バターをすこしもっていっておくれ」

赤ずきんは、さっそくでかけました。

おばあさんは、べつの村にすんでいたのです。

森の中を歩いていると、大きいオオカミがでてきました。

オオカミはひそかに、赤ずきんを食べてやろうと思いました。

でも、そうはいきませんでした。森のあちこちに狩人たちがいたのです。

そこでオオカミは、赤ずきんに「どこへいくんだい？」とたずねました。

オオカミのいうことにかまったりすると、とんでもないことになるか、赤ずきんにはわかりません。

そこで、こうこたえました。

「お母さんにたのまれて、おばあちゃんにおかしとバターをもっていくところなの」

「そのおばあさんは遠くにすんでいるのかい？」と、オオカミはたずねました。

「そうよ」赤ずきんはこたえました。

「ほら、あそこに風車場が見えるでしょ、あのむこうなの。村に入った最初の家よ」

「そうかい」と、オオカミはいいました。

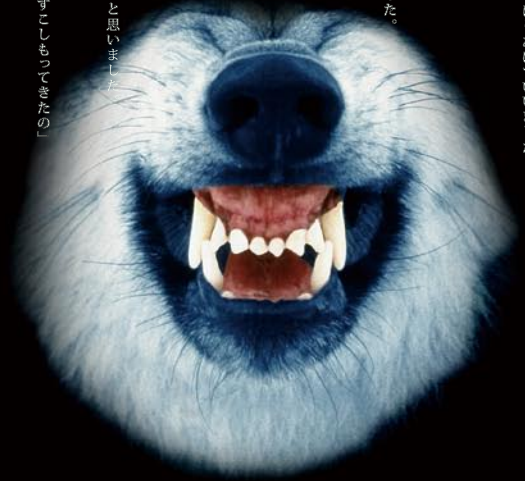
「じゃ、わしもおばあさんに会いにいこう。わしはこっちの道をいくから、あんたはあっちの道をいくといいよ。おばあさんの家へどっちが早くつくか、競争しよう」

こういうなりオオカミは、近道をさっと走っていきました。

赤ずきんのほうは、遠回りの道を通っていきました。

とちゅう、赤ずきんは木の実をひろったり、チョウを追いかけたり、道ばたの花をつんでは花束をこしらえたりしながら、のんびりと歩いていきました。

オオカミは、すぐにおばあさんの家へつきました。
そして、トン、トンと、入口の戸をたたきました。
「どなたかのう？」
「おばあちゃんの孫むすめの赤ずきんよ」オオカミは赤ずきんの声をまねてこたえました。
「お母さんにいわれて、おばあちゃんにおかしとバターをすこしもってきたの」
やさしいおばあさんは、体のぐあいが悪くてベッドにねていましたが、それでも声をはりあげていいました。
「くさびをぬくといいよ。そうすりゃ、かんぬきがはずれるから」
オオカミは、くさびを引きぬきました。
戸はすぐに開きました。
オオカミは、あっというまにおばあさんにとびかかると、ぺろりと食べてしまいました。
なにせ、この3日間、オオカミは何も食べていなかったのです。
やがて入口の戸を閉めると、オオカミはおばあさんのベットにもぐりこんで、
赤ずきんがやってくるのをじっと待ちました。
赤ずきんは、まもなくやってきました。
そして、戸をトン、トンとたたきました。
「どなたかのう？」家の中から、ふといしゃがれ声がしました。
それを聞いて、はじめ赤ずきんはこわくなりました。
でも、そのあとすぐに、かぜのせいで、おばあちゃんの声はしゃがれているんだわ、と思いました。
そこで、赤ずきんはこたえました。
「おばあちゃんの孫むすめの赤ずきんよ。お母さんのいいつけで、おかしとバターをすこしもってきたの」
すると、オオカミはできるだけ声をやさしくしていいました。
「くさびをぬいてごらん。そうすりゃ、かんぬきがはずれるから」
赤ずきんは、くさびを引きぬきました。
すぐに戸が開きました。
赤ずきんが家の中に入ってくるのをたしかめると、ベッドの中のオオカミは、かけぶとんで顔をかくしながらいいました。
「おかしとバターをそこの台の上において、ここへきていっしょにおやすみ」
赤ずきんは服をぬぐと、ベッドに入りました。



ところが、ねまきを着たおばあさんの体つきにびっくりして、
赤ずきんは大きな声でいいました。
「おばあちゃん、おばあちゃんの手、とっても大きいのね！」
「それはね、おまえをしっかり抱いてあげるためさ」
「おばあちゃんの足、とっても大きいのね！」
「それは、早く走れるようにさ」
「おばあちゃん、おばあちゃんの耳、とっても大きいのね！」
「それは、おまえの声がよく聞こえるようにさ」
「おばあちゃんの目、とっても大きいのね！」
「それは、おまえがよく見えるようにさ」
「おばあちゃん、おばあちゃんの歯、とっても大きいのね！」
「それはな、おまえをよく食べれるようにさ！」
そういうなり、この悪いオオカミは赤ずきんにとびかかると、
すっかりたいらげてしまいました。

ワンス・アポンナ・タイム・シリーズ『赤ずきん』西村書店刊より

赤色文庫　3

枝の上の方では、まるで大きなお祭のときに、レースふうの装飾紙で鉢を包まれた多くの薔薇の鉢植えが、細かな火箭（ひや）となって祭壇に輝くのにも似て、うすい色の小さな蕾が無数についており、それがほころびるときにはバラ色の大理石の盃の底のように、血潮を思わせる赤い色を見せ、また開いた花以上にはっきりと、このサンザシのゆるぎない特質を示していた。すなわちどこで蕾を持ち、どこで花開こうとも、この一本のサンザシはバラ色にしかなれないのである。生垣のなかに混じってはいるが、まるで、ずっと家にいるので部屋着のままの人びとのあいだに、一人だけ祭の盛装をした少女がいるように、このサンザシは生垣とまるで異なっており、「マリアの月」のための用意をすっかり整えて、もうその一部になっているらしかった。

マルセル・プルースト　鈴木道彦・訳
『失われた時を求めて1　第一篇　スワン家の方へ I』集英社文庫ヘリテージシリーズより

それが赤でなかったとしたら。

【東大赤門】

東京大学のキャンパス南西部にある校門（正門ではない）。

旧加賀藩主前田家上屋敷の御守殿門であり、一八二七年、加賀藩の第十三代藩主、前田斉泰が徳川家十一代将軍家斉の第二十一女、溶姫を迎える際に造られた。

門が赤いのは、将軍家斉の時代、三位以上の大名が将軍家から妻を迎える場合に、居住する御守殿に朱塗りの門を建造することが慣習だったためである。

このような朱塗りの門は焼失に際し、再建を許されない、という慣わしがあり、現存する唯一の御守殿門となっており、国の重要文化財にも指定されている。

【郵便ポスト】

郵便はがきや封筒を投函するための箱。

一九一五年に新しい郵便制度が施行された際に設置。当初は「書状集箱」「集信箱」などと呼ばれていた。

初期の色は赤ではなく黒だったが、郵便の「便」を見てトイレと勘違いしたり、夕方以降、ポストが見えにくくなるといった問題が起こり、「目立つ色」として赤に変更することになった。

ポストの色は世界共通ではなく、日本の郵便制度の導入元であるイギリスやイタリア・ポルトガルなどでは赤、アメリカは青、ドイツ・フランス・スペインなどでは黄、中国・ロシアなどでは緑である。

【東京タワー】

東京都港区芝公園四丁目にある集約電波塔（正式名称は日本電波塔という）。

一九五八年、放送事業の将来性に着目した大阪の新聞王、前田久吉によって、当時相次いで開局する各放送局の電波塔を一本化するという構想で建設された。自立式鉄塔としては世界一高い塔である。

航空障害となり得る煙突や鉄塔は頂部を赤にする、という塗装形式が航空法で定められており、赤いタワーとなっている。

ほぼ五年に一度の周期で約一年かけて外観塗装を補修。全て人の手で、ハケを使用して塗られている。

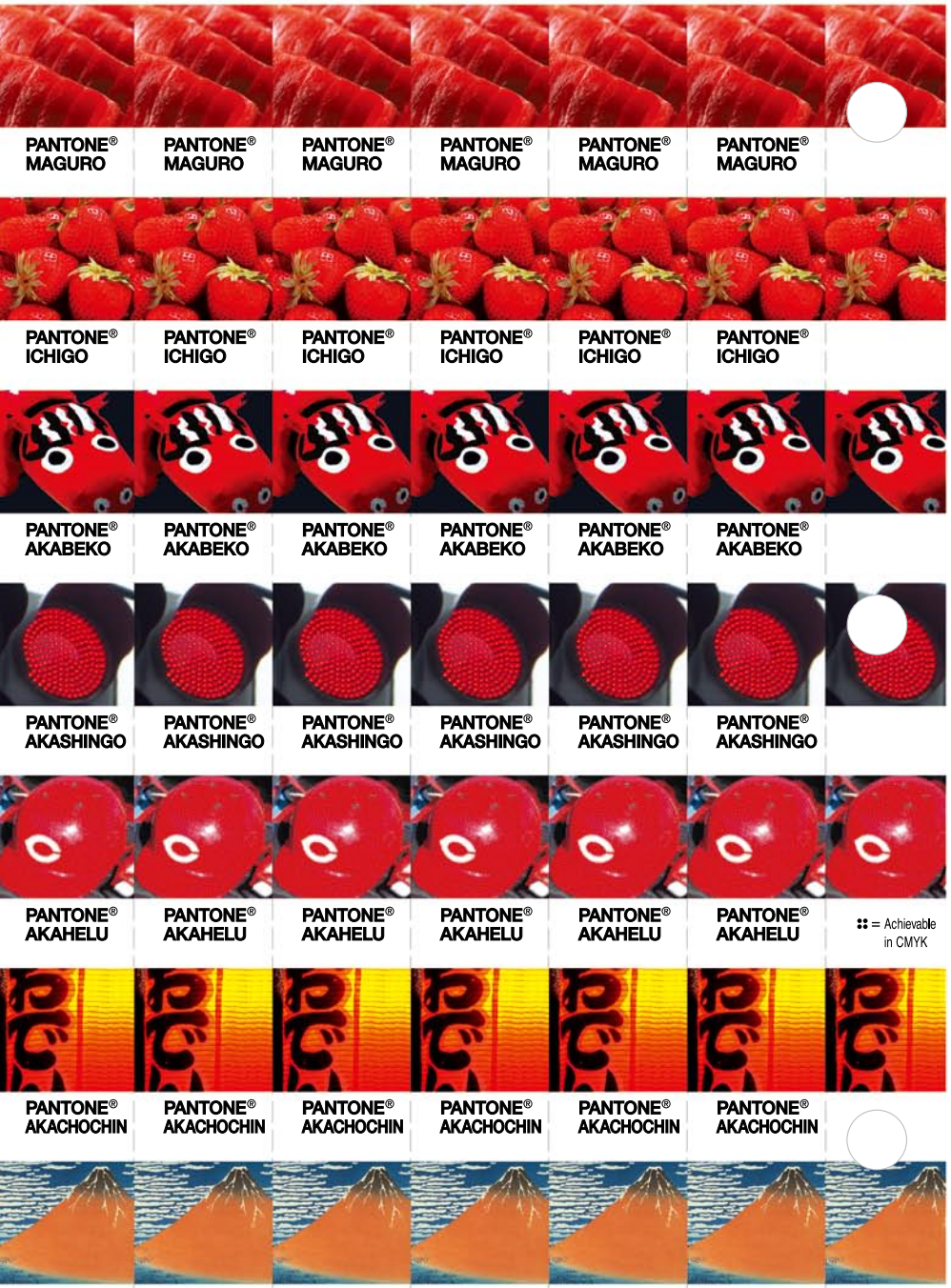
一九六四年の東京オリンピックのシンボルマークを依頼されて作った。オリンピックというのは国際的な行事であるが、開催地は日本である。東京である。そこでこのシンボルを作る思想として、日本を強く印象づけること。では、その日本とはなにかという問題にぶつかる。人それぞれによってその考えは違うだろう。富士山だと思う人。桜の花と思う人。舞扇だと思う人。なかには鳥居だと思う人さえいるのだ。私は少しも迷わず日の丸を選んだ。日の丸の赤が日本だと思ったからである。その赤は昇る太陽を象徴していると思ったからである。私は日の丸の旗そのものを、このシンボルにとり込むという考えは最初からしなかった。それは日の丸の旗は、白地と赤い丸とのバランスはあまりいいとは思わなかったからである。白い面積に対して赤い丸が少し小さいという感じがした。そのことで、デザインとしては弱く古い感じがしたからである。そして、どこか淋しい影を持っているのはそれが原因していると思ったからである。

私は赤い丸を太陽にみたて、また赤い丸が画面いっぱいにどかーんと出せば、それ自身新しい感覚の造形となりうるし、その丸い形にくっつけて金色の五輪のマークを配置すると、丸と丸とが接触して回転造形を生むと計算したからである。計算はうまく図にあたって、単純な何の変哲もない形態が相乗効果を生んで、力強い現代的な造形に変貌してくれた。このシンボルマークを大きく引き伸ばして、そのままオリンピックポスター第一号を作ることになった。

亀倉雄策
「日本の赤」
『曲線と直線の宇宙』講談社刊より

PANTONE®*

* Pantone, Inc.'s check-standard trademark for color reproduction and color reproduction materials. © Pantone, Inc.



⁘ = Achievable in CMYK

U = Uncoated Paper

PANTONE®*

* Pantone, Inc.'s check-standard trademark for color reproduction and color reproduction materials. © Pantone, Inc.

©石森プロ・東映

⁘ = Achievable in CMYK

U = Uncoated Paper

PANTONE®*

* Pantone, Inc.'s check-standard trademark for color reproduction and color reproduction materials. © Pantone, Inc.

PANTONE® SHOBOSHA | PANTONE® SHOBOSHA | PANTONE® SHOBOSHA | PANTONE® SHOBOSHA | PANTONE® SHOBOSHA | PANTONE® SHOBOSHA

PANTONE® TENGU | PANTONE® TENGU | PANTONE® TENGU | PANTONE® TENGU | PANTONE® TENGU | PANTONE® TENGU

PANTONE® YUHI | PANTONE® YUHI | PANTONE® YUHI | PANTONE® YUHI | PANTONE® YUHI | PANTONE® YUHI

PANTONE® HONO | PANTONE® HONO | PANTONE® HONO | PANTONE® HONO | PANTONE® HONO | PANTONE® HONO

PANTONE® IKURA | PANTONE® IKURA | PANTONE® IKURA | PANTONE® IKURA | PANTONE® IKURA | PANTONE® IKURA

⁘ = Achievable in CMYK

PANTONE® AKAGAI | PANTONE® AKAGAI | PANTONE® AKAGAI | PANTONE® AKAGAI | PANTONE® AKAGAI | PANTONE® AKAGAI

PANTONE® AKATOMBO ⁘ | PANTONE® AKATOMBO ⁘ | PANTONE® AKATOMBO ⁘ | PANTONE® AKATOMBO ⁘ | PANTONE® AKATOMBO ⁘ | PANTONE® AKATOMBO ⁘

U = Uncoated Paper

PANTONE®*

* Pantone, Inc.'s check-standard trademark for color reproduction and color reproduction materials. © Pantone, Inc.

PANTONE® TOMATO | PANTONE® TOMATO | PANTONE® TOMATO | PANTONE® TOMATO | PANTONE® TOMATO | PANTONE® TOMATO

PANTONE® TAKO | PANTONE® TAKO | PANTONE® TAKO | PANTONE® TAKO | PANTONE® TAKO | PANTONE® TAKO

PANTONE® POST | PANTONE® POST | PANTONE® POST | PANTONE® POST | PANTONE® POST | PANTONE® POST

PANTONE® DARUMA | PANTONE® DARUMA | PANTONE® DARUMA | PANTONE® DARUMA | PANTONE® DARUMA | PANTONE® DARUMA

⁘ = Achievable in CMYK

PANTONE® AKARENGA | PANTONE® AKARENGA | PANTONE® AKARENGA | PANTONE® AKARENGA | PANTONE® AKARENGA | PANTONE® AKARENGA

PANTONE® CHARZAKU | PANTONE® CHARZAKU | PANTONE® CHARZAKU | PANTONE® CHARZAKU | PANTONE® CHARZAKU | PANTONE® CHARZAKU

U = Uncoated Paper

PANTONE® SEKIHAN ⁘ | PANTONE® SEKIHAN ⁘ | PANTONE® SEKIHAN ⁘ | PANTONE® SEKIHAN ⁘ | PANTONE® SEKIHAN ⁘ | PANTONE® SEKIHAN ⁘

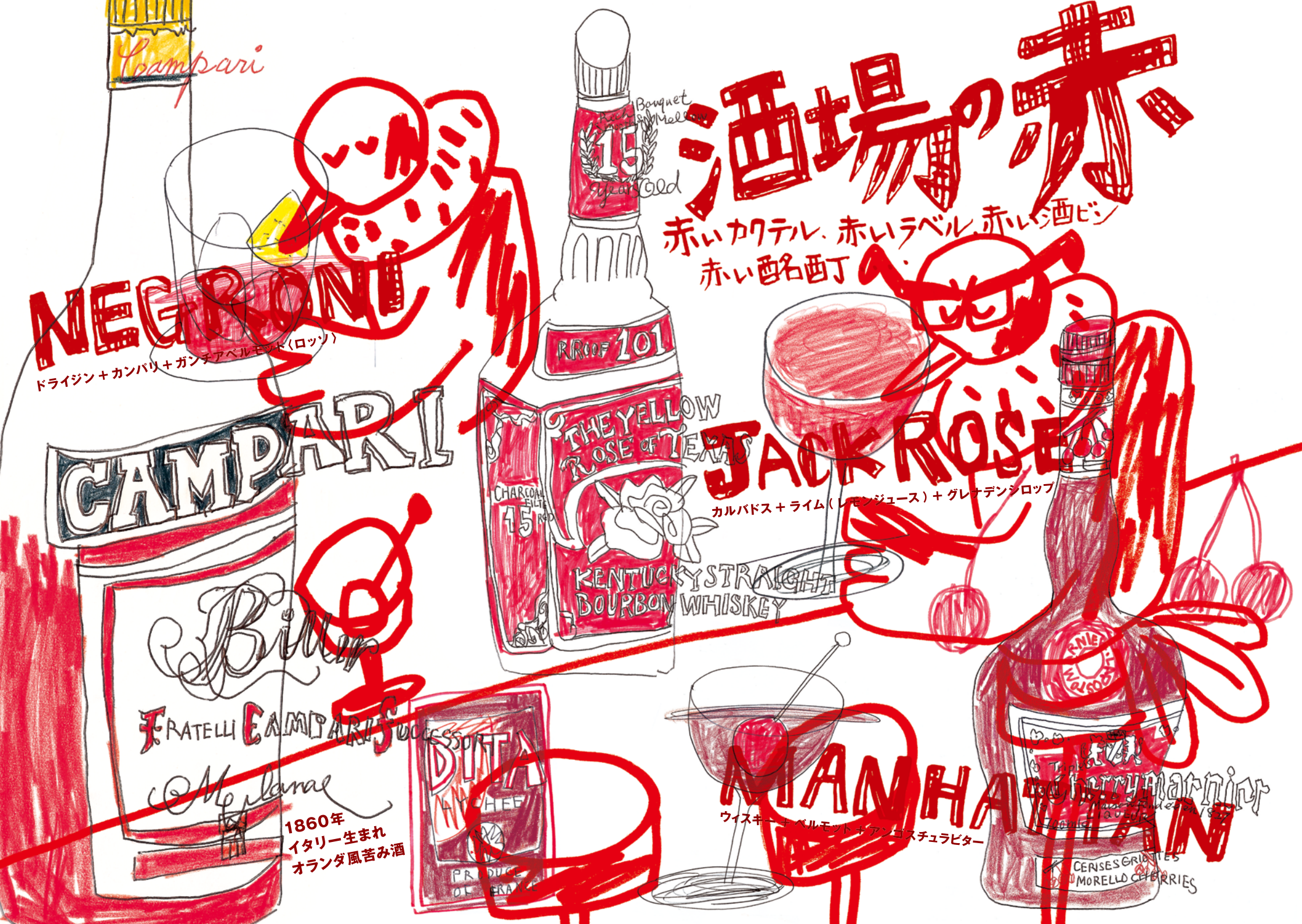
©創通・サンライズ

赤色文庫 5

地獄をテーマ別にして部分的に拡大したという点において、この絵巻はまさに『地獄草紙』に匹敵するだろう。『地獄草紙』の薄汚れたような暗鬱さに対して、この絵巻の奇妙な明るさ、激しさ、荒々しさを強調してもよい。それはあながち、画面の大きさのみに係わるものではあるまい。空間を感じさせる筆遣いの自由さ、色彩と表情の生き生ましさという点でも、はるかに『地獄草紙』を圧倒しているはずである。どの場面にも見られるアラベスクのような赤い焔の美しさに、『地獄草紙』の因習的な、衰弱したような火焔とは全く性質を異にした、力強い、近代的なデザイン感覚さえ感じると言ったら言いすぎであろうか。

澁澤龍彦
『地獄絵』（平凡社ギャラリー19）平凡社刊より

「北野天神縁起」承久本第八巻第一段より阿鼻地獄 13世紀 北野天満宮


酒場の本
赤いカクテル、赤いラベル、赤い酒ビン
赤い酩酊
NEGRONI
ドライジン＋カンパリ＋ガンチアベルモット〈ロッソ〉
CAMPARI
Bitter
FRATELLI CAMPARI SUCCESSORI
Milano
1860年
イタリー生まれ
オランダ風苦み酒
THE YELLOW ROSE OF TEXAS
KENTUCKY STRAIGHT BOURBON WHISKEY
JACK ROSE
カルバドス＋ライム（レモンジュース）＋グレナデンシロップ
MANHATTAN
ウィスキー＋ベルモット＋アンゴスチュラビター
CERISES GRIOTTES
MORELLO CHERRIES

カクテル監修協力：カエサリオン（田中利明）03-3485-2907

赤色文庫 6

赤玉のんで、おやすみなさい。
赤玉スイートワイン（1980／木村昇／サントリー）

赤チン少年。
（1981／岡部正泰／国鉄）

女の数だけ赤がある。
マリークワント（1978／岩崎俊一／マリークワント・コスメチックス・ジャパン）

赤いキッス
カゴメケチャップ
（1973／日下部宏／カゴメ）

なぜリトマス紙が赤くなるんだろう。
イオン飲料・アルカリ性［ポカリスエット］
（1985／高田美子／大塚製薬）

お父さんは知らなかった。赤いパンツをはいてもいいことを。
SILVER OX（1989／児島令子／内外衣料製品）

赤がカッコいいので、赤にしてみました。
（2004／松本恭彦／リクルート）

パソコンで見た中トロが、プリントしたら赤身に化けた。
（2005／加藤大志郎・渡辺潤平／コニカミノルタ）

ローレン あの晩きみは赤い靴だった
（1974／長沢岳夫／ダイアナ）

赤鬼
ブロギア（2006／三井浩／横浜ゴム）

赤女と、赤ときさと、青男とむら
（1983／佐藤芳文／資生堂）

戦車が怖くて赤いきつねが喰えるか！
（1980／種田誠二／東洋水産）

定刻退社の、赤ちょうちん。
サントリーレッド 赤ちょうちん
（1985／中村禎／サントリー）

おいトマト、そんなに照れるな真っ赤だぞ。
キリントマトジュース（1977／中村治夫／麒麟麦酒）

あなた、口ほどでもないのね。と赤い靴がいい。
（1978／中塚大輔／リリー製靴）

ゼロックスは赤も青も黄も黒にするのが欠点です
（1967／久保丹／富士ゼロックス）

真ッ赤な歯
シロッパ（1981／原鴻一郎／松下電器産業）

おかげさまで、赤字の70年。
（2002／磯部康人・福部明浩／Z会）

赤の白書です
（1985／犬山達四郎／資生堂）

青の日も、赤の日も、白
サントリーホワイト（1971／西村嘉禮／サントリー）

真っ赤な情熱の真っ赤って、どんな真っ赤だろう。
ダイナミクロン（1983／仲畑貴志／ソニー）

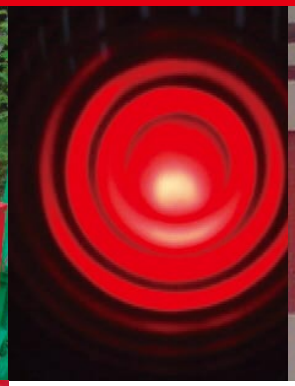
『赤は女にとっていちばん古くいちばん新しい色』
資生堂ナチュラルグロウ（1973／犬山達四郎／資生堂）

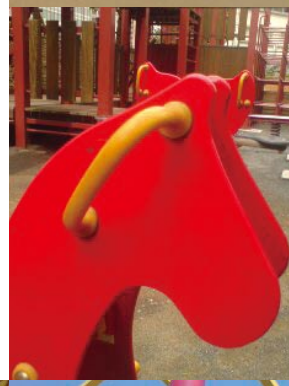
中国大陸が凍ると、大根が赤くなる。
キユーピーマヨネーズ（1981／秋山晶／キユーピー）

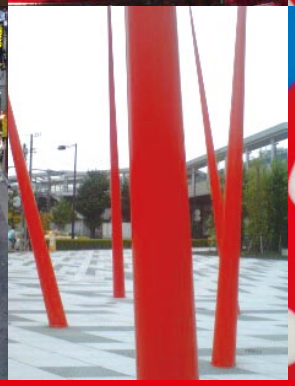
憩いの赤・気迫の黒
（1964／村瀬尚／森永製菓）

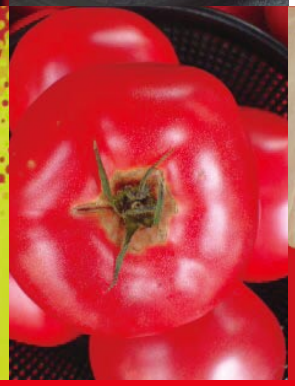
上手に年をとらないと、赤の似合う男にはなれない。
チェイサー（1980／山田和彦／トヨタ自動車販売）

掲載したコピーは「赤鬼」を除き、TCC年鑑より引用させていただきました。カッコ内は順に、コピー発表年、コピーライター、クライアントです。



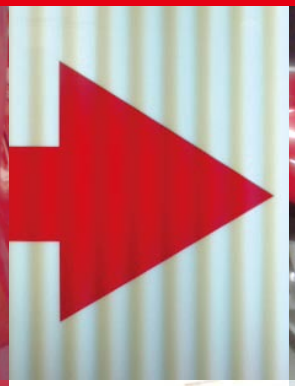
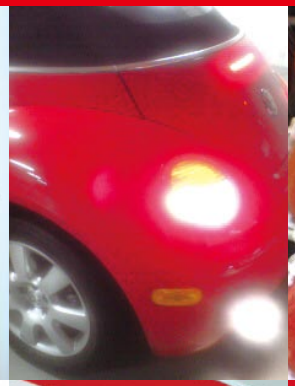






赤

赤いトマト、まっ赤な太陽、レッドソックス、赤ヘル、バラの赤、赤いポルシェ、赤いリンゴ、赤いクツ、郵便ポストの赤、コカコーラの赤、絵金の赤、ラッキーストライクの赤、ソ連と中国、赤いハイヒール、赤いトラクターは小林旭、浅田美代子が懐かしい赤い風船、夕陽は赤くは誰だっけ、赤トンボに赤ちょうちん、赤い絆はあの山口百恵・・赤の連想ゲームは楽しい。やっぱり極めつきは赤いハート、情熱ですなぁ。

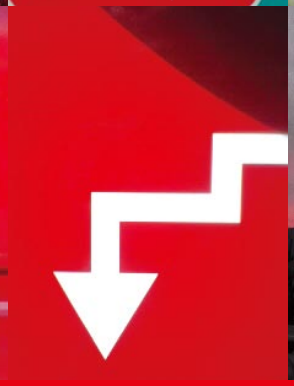



LOVE TOKYO

ing

はきてかくしてね！

oppo



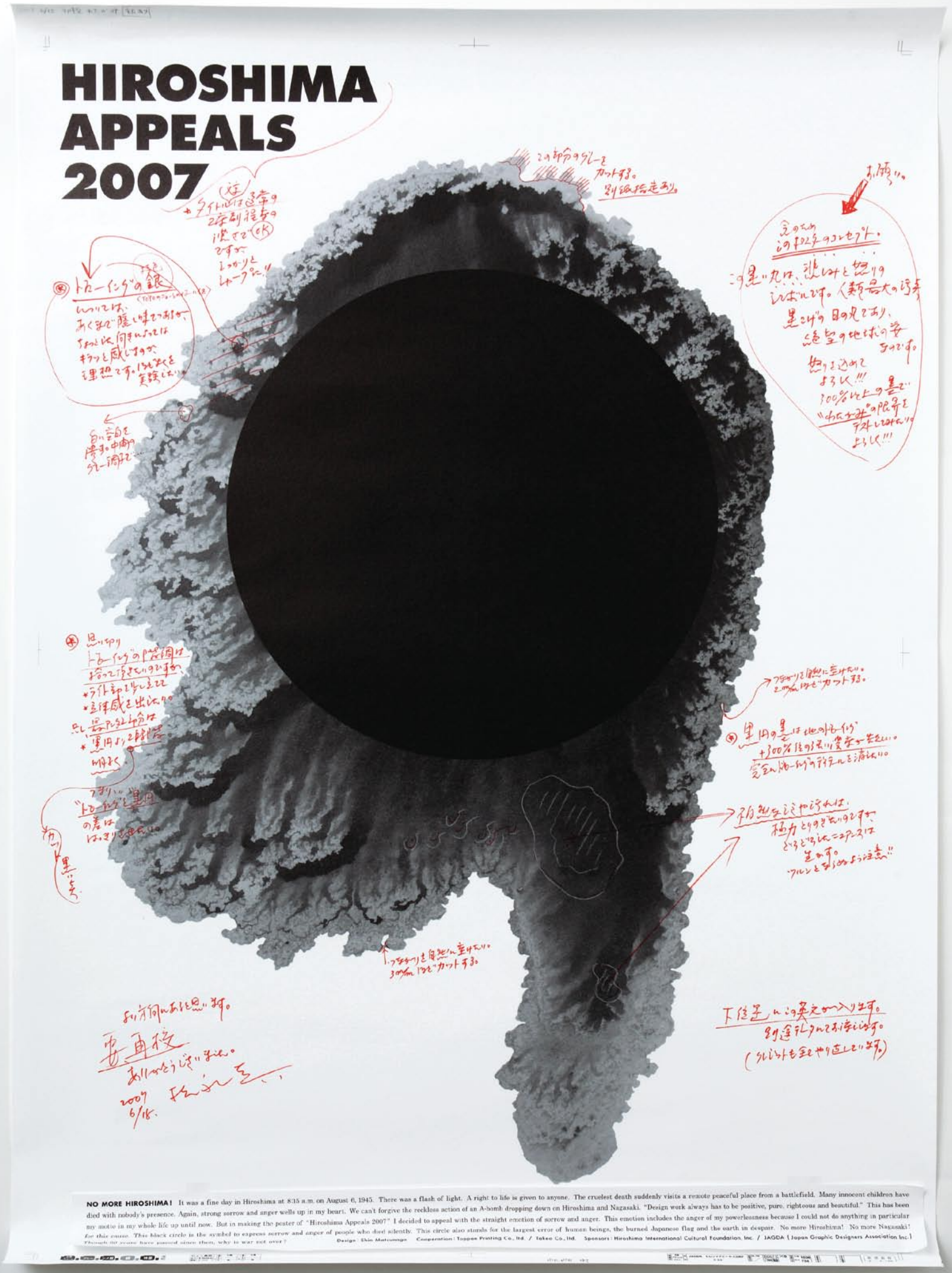
P
外車
大型車
一時預り・月極駐車
OPEN

赤色文庫 7

「テニソンの赤を出してください」
僕はこの一言で色の道に入った。
何のことやらチンプンカンプン。助けを求める目を太田徹也さんに向ける。太田さんはニコニコしながら、いろいろな色を集めた抽出しの中から赤の一段を抜き、パッケージの切れ端を僕に渡してくれた。
その頃は、東洋インキの色見本帖や、DICのカラーサンプルもない時だから、雑誌であり、パッケージであり、ポスターでありの印刷物のなかから切り抜いて、色ごとに区分けをし、自分流の色見本を作っておられた時代だ。
その渡された赤色が「テニソン」というアメリカタバコの縦縞の赤である。ラッキーストライクの赤でもなければ、スリーAの赤でもない。テニソンの赤を先生はイメージされている。
それからが大変。ポスターカラーを机いっぱい広げて、薬剤師よろしく色を作って行くのである。
テニソンの赤を作るのに半日は掛かり、ちょっとした色づかいのところに、丼一杯もの色を作ってしまうのである。
そうして僕は身体で色を覚えた。

長友啓典
「テニソンの赤」
『田中一光デザイン室 30年の歩み』より

撮影：小平忠生
撮影協力：たばこと塩の博物館


HIROSHIMA
APPEALS
2007
NO MORE HIROSHIMA! It was a fine day in Hiroshima at 8:15 a.m. on August 6, 1945. There was a flash of light. A right to life is given to anyone. The cruelest death suddenly visits a remote peaceful place from a battlefield. Many innocent children have died with nobody's presence. Again, strong sorrow and anger wells up in my heart. We can't forgive the reckless action of an A-bomb dropping down on Hiroshima and Nagasaki. "Design work always has to be positive, pure, righteous and beautiful." This has been my motto in my whole life up until now. But in making the poster of "Hiroshima Appeals 2007" I decided to appeal with the straight emotion of sorrow and anger. This emotion includes the anger of my powerlessness because I could not do anything in particular for this cause. This black circle is the symbol to express sorrow and anger of people who died silently. This circle also stands for the largest error of human beings, the burned Japanese flag and the earth in despair. No more Hiroshima! No more Nagasaki! Though 62 years have passed since then, why is war not over?
Design : Shin Matsunaga Cooperation : Toppan Printing Co., ltd. / Takeo Co., ltd. Sponsors : Hiroshima International Cultural Foundation, Inc. / JAGDA (Japan Graphic Designers Association Inc.)

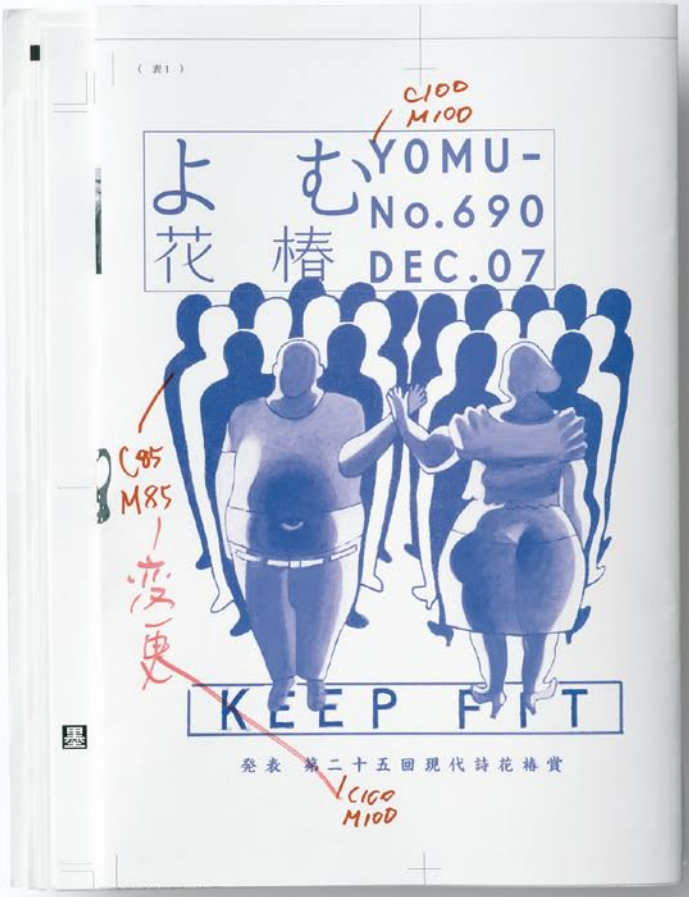
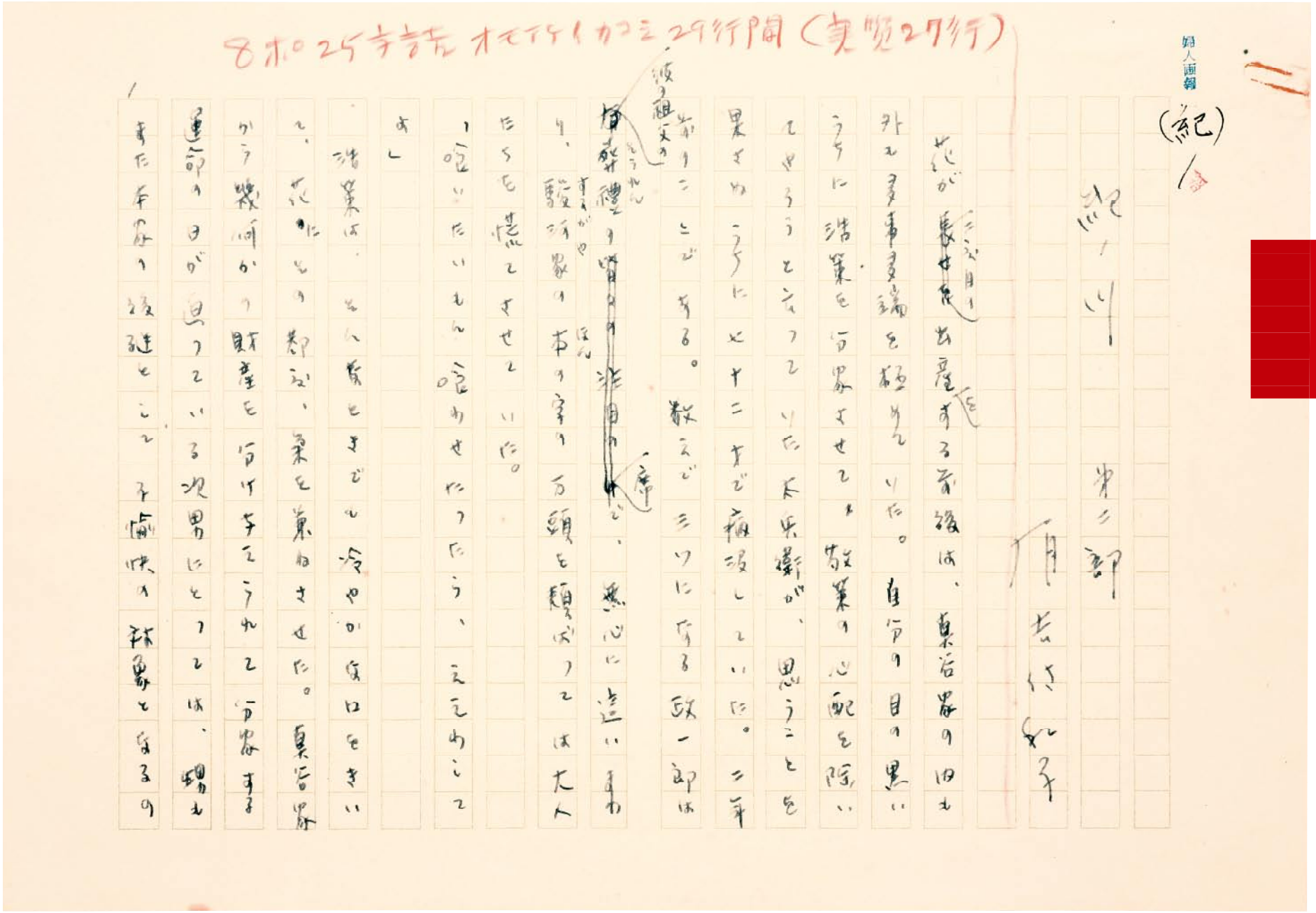


Photo: Keizo Kioku

有吉佐和子の小説『紀ノ川』手書き原稿。これは赤についての文章ではなく、赤字の入った文章。小説家の赤字（推敲の跡）は思考の痕跡でもある。赤エンピツは編集者による入稿時の文字指定。



撮影：山崎洋一

真赤な太陽

作詞：吉岡 治　作曲：原 信夫　唄：美空ひばり、ジャッキー吉川とブルー・コメッツ

まっかに燃えた太陽だから
真夏の海は恋の季節なの
渚をはしるふたりの髪に
せつなくなびく甘い潮風よ
はげしい愛に灼けた素肌は
燃えるこころ恋のときめき
忘れず残すため
まっかに燃えた太陽だから
真夏の海は恋の季節なの

いつかは沈む太陽だから
涙にぬれた恋の季節なの
渚に消えたふたりの恋に
砕ける波が白く目にしみる
くちづけかわし永遠を誓った
愛の孤独海にながして
はげしく身をまかす
いつかは沈む太陽だから
涙にぬれた恋の季節なの
（恋の季節なの）
恋の季節なの
（恋の季節なの）
恋の季節なの

photo: Aki Maeda

赤いスイートピー

作詞：松本 隆　作曲：呉田軽穂　唄：松田聖子

春色の汽車に乗って
海に連れて行ってよ
煙草の匂いのシャツに
そっと寄りそうから
何故知りあった日から
半年過ぎても
あなたって手も握らない
I will follow you　あなたに
ついてゆきたい
I will follow you　ちょっぴり
気が弱いけど
素敵な人だから
心の岸辺に咲いた　赤いスイートピー

四月の雨に降られて
駅のベンチで二人
他に人影もなくて
不意に気まずくなる
何故　あなたが
時計をチラッとみるたび
泣きそうな気分になるの？
I will follow you　翼の
生えたブーツで
I will follow you　あなたと
同じ青春
走ってゆきたいの
緑路の脇のつぼみは　赤いスイートピー

好きよ
今日まで逢った誰より
I will follow you　あなたの
生き方が好き
このまま帰れない　帰れない
心に春が来た日は　赤いスイートピー

photo: Chiyoe Sugita

赤いハンカチ

作詩：荻原四朗　作曲：上原賢六　唄：石原裕次郎

アカシアの　花の下で
あの娘がそっと　瞼を拭いた
赤いハンカチよ
怨みに濡れた　目がしらに
それでも涙は　こぼれて落ちた

北国の　春も遠く日
俺たちだけが　しょんぼり見てた
遠い浮雲よ
死ぬ気になれば　ふたりとも
霞の彼方に　行かれたものを

アカシアの　花も散って
あの娘はどこか　おもかげ匂う
赤いハンカチよ
男広の胸に　この俺の
こころに遠るよ　切ない影が

photo: Hironori Shirakawa

赤色エレジー

作詞：あがた森魚　作曲：八洲秀章　唄：あがた森魚

愛は愛とて　何になる
男一郎　誠とて
幸子の幸は　どこにある
男一郎　ままよとて
昭和余年は　春も宵
桜吹雪けば　蝶も舞う

さみしかったわ　どうしたの
お母さまの　夢見たね
おふとん　もひとつ　ほしいよね
いえいえこうして　いられたら

あなたの口から　さよならは
言えないことと　思ってた
裸電灯　舞踏会
踊りし日々は　走馬灯

幸子の幸は　どこにある
愛は愛とて　何になる
男一郎　誠とて
幸子の幸は　どこにある
男一郎　ままよとて
幸子と一郎の　物語
お泪頂戴　ありがとう

photo: Katsuhiro Ichikawa

JASRAC出 0715487-701

赤色文庫　9

従兄の家の竝(なら)びの角まで来た。藁屋根の屋根の棟(むね)の上に、人が四五人上がつてゐる。棟の突端に今の労働運動の赤旗の様な赤い切れが、立ち騰(のぼ)る黒煙の上昇気流に吸ひ寄せられて、そちらへはたはたと靡(なび)いてゐる。赤いのは女房の腰巻ださうで、火はけがれを嫌ふから、そんなきたない物を炎の前にかざして置けば、火の方で避けて逃げると云ふ縁起(えんぎ)である。

それで延焼をまぬかれる。棟の上に起った人人(ひとびと)は赤旗をかざし、日を見張って真剣である。

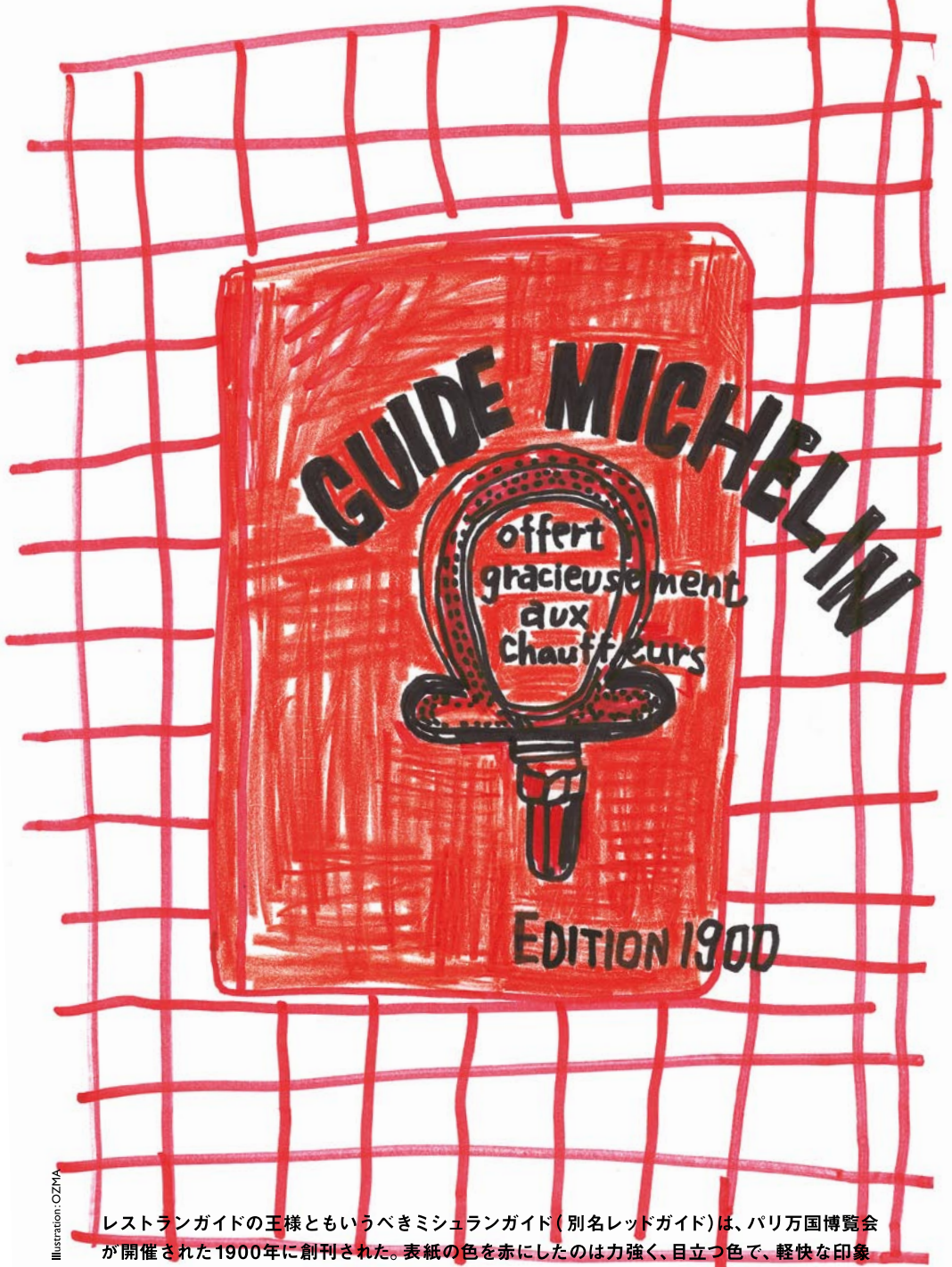
内田百閒
「昼火事昼花火昼行燈」
『残夢三昧』旺文社文庫より

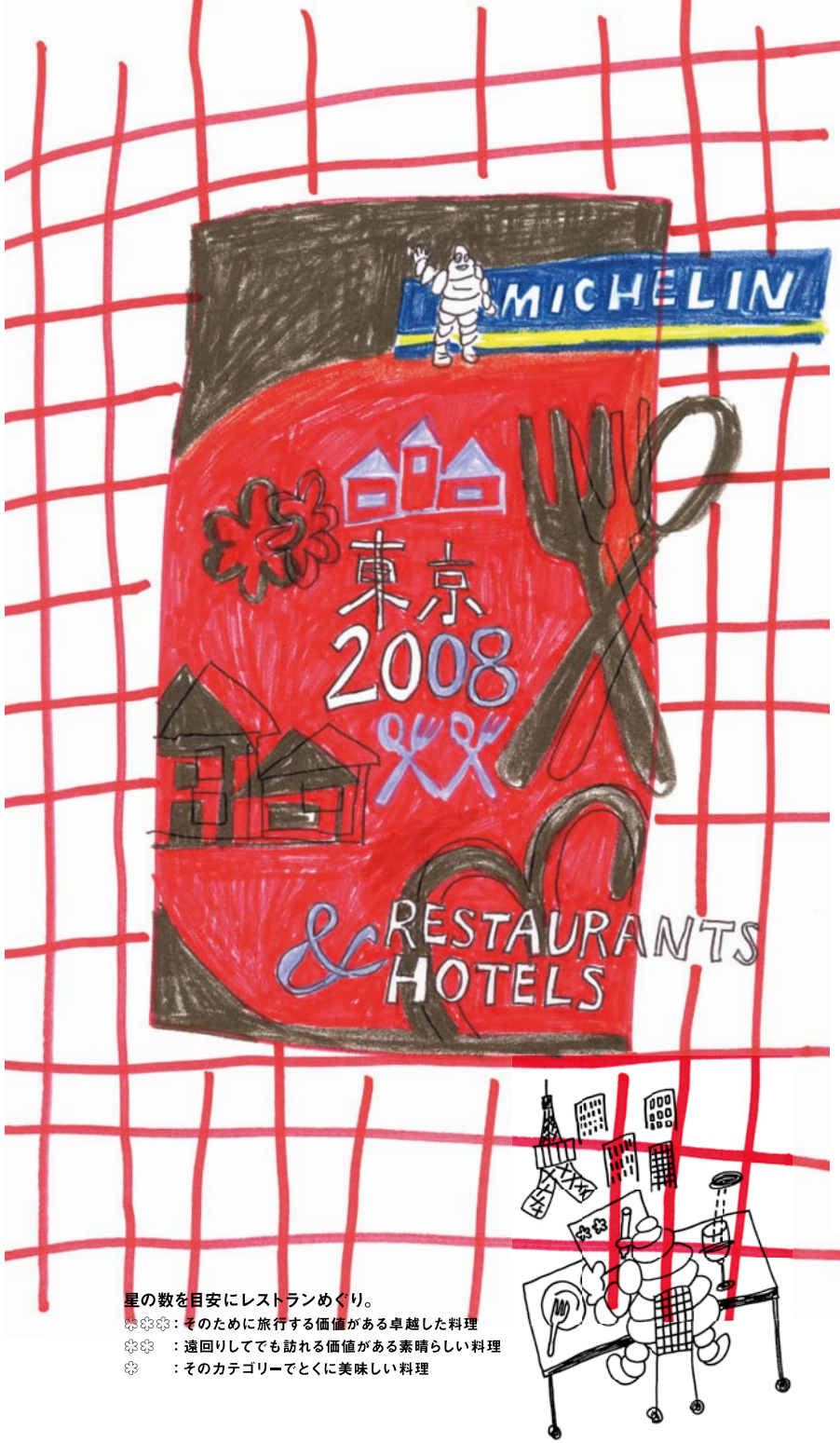
赭衣 ～しゃい～

Photo : Nonita　Model : Izumi　Hair & Makeup : Maki Ishiguro　Styling : Takehito Asahi (arms)　Collaboration : INSOMNIA GINZA　しゃい：赤い服、罪人の服の意

ニュースな赤！

――この秋、赤い表紙のミシュランガイド日本版がついに出た！





星の数を目安にレストランめぐり。
❀❀❀：そのために旅行する価値がある卓越した料理
❀❀　：遠回りしてでも訪れる価値がある素晴らしい料理
❀　　：そのカテゴリーでとくに美味しい料理

Illustration:OZMA

レストランガイドの王様ともいうべきミシュランガイド（別名レッドガイド）は、パリ万国博覧会が開催された1900年に創刊された。表紙の色を赤にしたのは力強く、目立つ色で、軽快な印象を与える色だから。創刊当時は、国別に色を変えていこうという動きもあったらしい。が、結局はレストランガイドは赤、旅行ガイドは緑に統一され現在に至っている。

photo : Keizo Kioku

NIPPO

POST

日本郵

郵便が変わり始めた。
切手のデザインはどう変わる。

東京ミッドタウン・
デザインハブ
第7回企画展

80

切手

2007.12.14. fri – 2008.2.3. sun

12月31日（月）～1月3日（木）休館

会場：東京ミッドタウン・デザインハブ（ミッドタウン・タワー5F） ※入場無料

展示作品：約200点 ※今回展示する切手作品は、実際に販売・使用できるものではありません。
主催：東京ミッドタウン・デザインハブ　企画・運営：社団法人日本グラフィックデザイナー協会／JAGDA

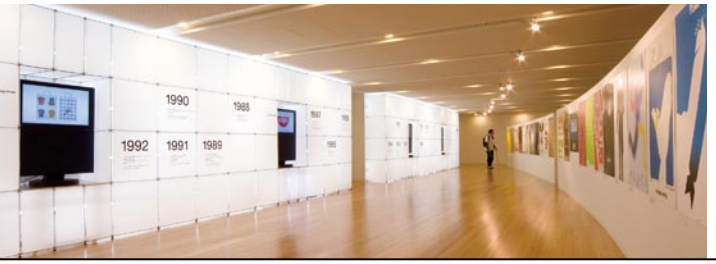
誕生してから160年以上の歳月が流れる「切手」。今や郵便物は切手を貼ってポストに投函するだけでなく、さまざまな方法で送ることが可能になりました。そして、文字によるコミュニケーションは、手紙やハガキに加えて、電子メールが大きな役割を担っています。それでも切手を一枚一枚選んで貼って送る人は数多く存在し、最近では逆に増えているそうです。そもそも郵便物を送るという機能のためだけだったら、「切手」に、これほどの種類は必要なかったでしょう。機能的な価値だけでなく、送る人の気持ちを伝える情緒的な価値を持つ「切手」。今でも多くの人に愛され続けている「切手」。折しも郵政民営化で郵便事業自体が変わり始めました。そんな中「切手」のデザインはどう変わっていくのでしょう。JAGDAは「切手」のその小さなグラフィックに注目しました。今まで発行された数々の美しい「切手」に敬意を表しつつ、JAGDA会員が新しい切手のデザインにチャレンジします。新たな感動を伝える小さなグラフィックデザイン、JAGDAによる「切手」の展覧会に、是非ご期待ください。

JAGDA Tokyo Midtown DESIGN HUB

www.designhub.jp

JAGDA! HUBダ!

2007年3月、東京ミッドタウンのタワー5Fに誕生した「東京ミッドタウン・デザインハブ」。
(財)日本産業デザイン振興会、九州大学・芸術工学東京サイトとともに運営するこのスペースから
JAGDAが発信したデザイン情報をレポートします。



デザインハブにおけるJAGDA初の企画展では、過去の企画展ポスターから九十二点を展示し、壁面モニターで創刊以来の年鑑掲載作品よりジャンル毎に約一〇〇〇点を上映。会期中の来場者は一六五〇九人を数え、リレートークは各回とも満員。多くのメディアにも紹介されました。

東京ミッドタウン・
デザインハブ第2回企画展

日本のグラフィックデザイン:ジャグダ1981〜2006

会期:2007年5月14日(月)〜6月17日(日)

デザインハブ・オープニング・リレートーク　〜デザインの未来〜
司会・構成:後藤繁雄氏 (編集者・クリエイティブディレクター)

5月18日(金)「広告とCIの未来」
浅葉克己×永井一史

5月26日(土)「ポスターとブック・エディトリアルの未来」
葛西 薫×廣村正彰

5月27日(日)「グラフィックデザインの未来」
永井一正×原 研哉

「パッケージとジェネラルグラフィックの未来」
松永 真×佐藤 卓×森本千絵

会場撮影:浅川 敏
トーク撮影:邑口京一郎

JAGDA教育委員会セミナー「文字の先と端」

八月より実施中の連続セミナー「文字の先(さき)と端(はし)」。活版からインタラクティヴ・メディアまで、文字文化全体について学ぶ企画は、学生からプロフェッショナルまで幅広い層に人気で各回満員の盛況ぶり。いよいよ最終回となる次回講座は十二月に開催予定です。

8月講座「活版/写植/電子組版」

8月3日(金)「未来のある活版印刷」
ゲスト:三木弘志 (活版技術者/弘陽)
スピーカー:高田 唯、梅原 真 (以上教育委員)

8月4日(土)「100%写植」
ゲスト:伊藤義博 (フォントコーディネーター/文字道)
スピーカー:高田 唯、梅原 真

8月5日(日) モリサワ文字講座「解る&判る&分かる文字組版」
スピーカー:村辻博見 ([株]モリサワ 営業3部カスタマーセンター)

9月講座「西方式/東方式」

9月14日(金)「西方式/書体のデザインから始まるVI」
ボー・リンネマン(デンマーク/コントラプンクト社プリンシパル)

9月15日(土)「東方式/東アジアの文字の歴史を一望する」
小磯裕司 ([株]日本デザインセンター小磯デザイン研究室主宰)

www.faber-castell.jp

ファーバーカステル 東京ミッドタウン　東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3F TEL&FAX 03-5413-0300 営業時間11:00-21:00(年中無休)

東京ミッドタウン・デザインハブ第4回企画展「キッズデザイン＆ワークショップ」

東京ミッドタウン・デザインハブの初めての夏休みは、各参画機関が子どもたちに「体験から考え創る楽しさ」を感じてもらえるワークショップを開催。JAGDAは絵本の読み聞かせと紙を使ったワークショップを実施しました。

8月12日（日）
「本とあそぼう　全国訪問おはなし隊」
協力：（株）講談社

8月18日（土）～19日（日）
「フィジカルペーパープレイ（からだと紙であそぶ）」
企画：勝井三雄・森本千絵・斉藤啓子（武蔵野美術大学）
協力：（株）竹尾、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科学生

撮影（上）：池田晶紀（ゆかい）

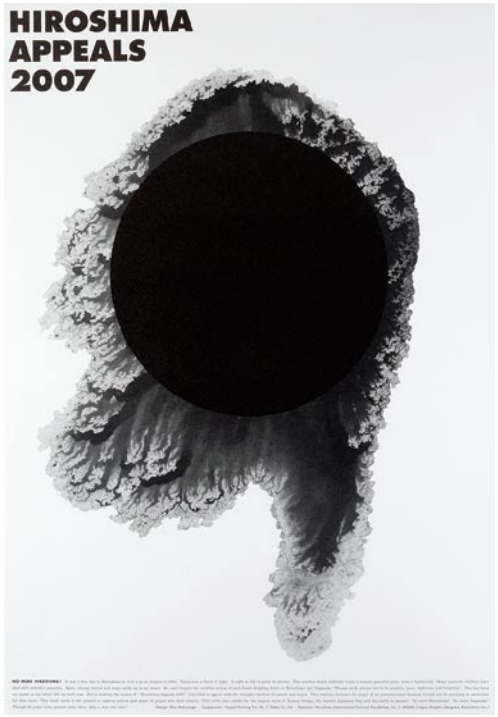
JAGDA国際セミナー「ブルノ・ビエンナーレと日本のデザイン」

一九六四年に創立されたブルノ国際グラフィックデザイン・ビエンナーレは、デザイン界で最も歴史の古いポスタービエンナーレです。イベントを主催するチェコ国立モラヴィア・ギャラリーの学芸員がその歴史と現在を紹介し、グランプリ受賞と審査員、両方の立場を経験した日本側二名が現地でのエピソードを披露しました。

9月7日（金）
スピーカー：マルタ・シルヴェストロヴァ（モラヴィア・ギャラリー）、
青葉益輝（'82グランプリ・'86審査員）、永井一正（'88グランプリ・'90審査員）

DAINIPPON INK & CHEMICALS

「ヒロシマ・アピールズ」ポスター2007年度版が完成



タイトル：NO MORE HIROSHIMA!
デザイナー：松永 真
※制作コメントをJAGDAウェブサイトに掲載中（www.jagda.org）

ＪＡＧＤＡと（財）広島国際文化財団は、一九八三年より、言葉を超えて“ヒロシマの心”を訴えるポスターを共同制作、国内外に平和を呼びかけるキャンペーン「ヒロシマ・アピールズ」を展開しています。この度、松永真氏のデザインによる二〇〇七年度版ポスターが完成しました。

主催：（財）広島国際文化財団、
（社）日本グラフィックデザイナー協会
実行：JAGDA広島地区
協力：凸版印刷（株）、（株）竹尾

●過去の制作者
1983年 亀倉雄策「燃え落ちる蝶」
1984年 粟津　潔「鳥たち」
1985年 福田繁雄「地球」
1986年 早川良雄「子供と鳩」
1987年 永井一正「閃光に砕ける翼」
1988年 田中一光「一羽の白い鳩」
1989年 勝井三雄「ヒロシマの天空」
1990年 石岡瑛子「X像の沈黙」
2005年 仲條正義「Give Peace a Chance」
2006年 佐藤晃一「黄金の蝶」

●2007年度版ポスター（B1サイズ）の販売について
販売価格：1,050円（税込み）　入金方法：1,550円（代金1,050円＋発送手数料500円）を郵便振替にてお振り込みください。
（通信欄に「ヒロシマ・アピールズポスター2007 希望」と明記）
口座番号：00140-9-74159
口座名：社団法人日本グラフィックデザイナー協会

※過去の「ヒロシマ・アピールズ」ポスター保存分の一部をセットで特別販売中。
詳細は、JAGDA事務局までお問い合わせください。

年鑑『グラフィックデザインインジャパン二〇〇七』

全国のＪＡＧＤＡ会員から出品された一年の仕事を紹介する、年鑑『Graphic Design in Japan』。二〇〇七年版は、五二五点もの図版に加え、カテゴリーの傾向や印象に残る作品について選考委員が語る十二のミニ座談会も必読。世界に誇る、日本のグラフィックデザインの粋を集めた一冊、好評発売中です。

編集長：澤田泰廣
ブックデザイン：水野学

カテゴリー：亀倉雄策賞／新人賞／ポスター／ジェネラルグラフィック／CI・シンボル・ロゴ／ブック・エディトリアル／パッケージ／新聞広告／雑誌広告／インタラクティブデザイン・モーショングラフィック／環境・空間

体裁：A4判（天地297mm×210mm）
ハードカバー／ケース入　総480頁（カラ　355頁）

●定価：15,750円（税込み）　全国の書店で発売中

※JAGDA会員特価：
購入方法はJAGDA事務局までお問い合わせください。
・会員・フレンドメンバー：13,000円（税込み・送料サービス）
・スチューデントメンバー：8,400円（1冊限り／税込み・送料サービス）

SHISEIDO
MAQUillAGE
一瞬も
一生も
美しく

JAGDA

社団法人日本グラフィックデザイナー協会

(社)日本グラフィックデザイナー協会／JAGDA(ジャグダ)は、日本で唯一のグラフィックデザイナーの全国組織です。1978年に設立、1984年に通商産業省(現・経済産業省)所管の社団法人となり、現在、会員デザイナーは約2,500名。日本全国で、グラフィックデザインの向上を推進するさまざまな活動を行っています。
年鑑『Graphic Design in Japan』やデザイン教科書『VISUAL DESIGN』などの出版をはじめ、平和や環境、世界遺産などをテーマにした展覧会、シンポジウムやセミナーの開催、デザインの権利保護やデザイン料金に関する取り組み、福利厚生制度の紹介のほか、デザインによる地場産業の振興や地域の活性化など、公益法人として社会や地域のためのデザイン活動を展開。また、国際グラフィックデザイン団体協議会／Icogradaへの参加をはじめとする国際交流も積極的に推進しています。
そして2007年3月、(財)日本産業デザイン振興会、九州大学・芸術工学東京サイトとともに、新しいデザイン拠点「東京ミッドタウン・デザインハブ」を開設。日本のデザインを社会や世界に広く発信していきます。

正会員・フレンドメンバーのご案内

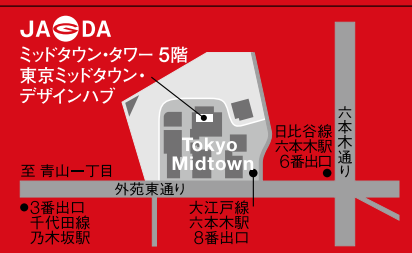
JAGDAでは、正会員およびフレンドメンバーを随時募集しています。入会方法に関する詳細は、ウェブサイトをご覧いただくか、JAGDA事務局までお問い合わせください。

●正会員
入会金：個人30,000円
(サークルメンバーとして2年間在籍した方は免除)
年会費：個人36,000円(海外会員は24,000円)
入会資格：1.グラフィックデザインの実務に2年以上従事している個人
2.グラフィックデザインの教育に2年以上携わっている個人
3.その他上記に規定する資格と同等の資格を有する個人

●賛助会員
年会費：1口 100,000円(入会金なし)
入会資格：グラフィックデザインに関心のある法人、団体および個人

●フレンドメンバー
スチューデントメンバー
年会費：5,000円(入会金なし)
対象：学生の方(学校の種類は問いません)

サークルメンバー
年会費：10,000円(入会金なし)
対象：グラフィックデザイナーの方
サポートメンバー
年会費：10,000円(入会金なし)
対象：グラフィックデザインに理解・関心のある方



アクセス
都営地下鉄大江戸線「六本木駅」8番出口より直結
東京メトロ日比谷線「六本木駅」地下通路にて直結
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩10分

社団法人 日本グラフィックデザイナー協会　〒107-6205 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー 5F
Tel:03(5770)7509／Fax:03(3479)7509　e-mail jagda@jagda.org　URL http://www.jagda.org

JAGDA広報委員会：企画・構成・編集・制作
長友啓典[広報担当運営委員]：監修
秋田 寛[委員長]：編集長
永井裕明[副委員長]：副編集長

秋田 寛：赤色文庫
阿部真理子：酒場の赤／ニュースな赤!
居山浩二：それが赤でなかったとしたら。
工藤"ワビ"良平：血液型による赤色の研究
小島利之：赭衣〜しゃい〜
清水柾行：赤ずきん
新村則人：デザインの赤字
戸田宏一郎：あの赤はこんな赤
永井裕明：表紙／巻頭／赤ちょうちんと歌謡曲
長友啓典：アササン(朝の散歩)の赤
松吉太郎：赤いご祝儀袋

都築響一：表紙写真／巻頭写真・文
中山真理+原田 環(カワイイファクトリー)：編集協力
木奥恵三(木奥恵三写真事務所)：撮影協力

[次号予告]
JAGDA IN OSAKA
2008年6月、JAGDAは大阪で「全国大会」を開催します。協会創立30周年を迎える記念すべき大会に向けて、次号『ジャグダ』では大阪を特集します(2008年5月発行予定)。こうご期待!

[アンケートのお願い]
今号の内容について、JAGDAウェブサイトより、ぜひご感想をお寄せください。 www.jagda.org

JAGDA REPORT vol.183 特別号「ジャグダ」
発行／2007年11月28日
印刷・製本／株式会社北斗社
用紙／[表紙]ミルトGAスノーホワイト 菊版125kg
[本文]スマッシュ 菊版 53.5kg
発行者／社団法人日本グラフィックデザイナー協会
〒107-6205 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F
TEL 03-5770-7509
FAX 03-3479-7509
jagda@jagda.org　www.jagda.org
© 2007 by Japan Graphic Designers Association Inc.
※本書を無断で複製・転載することを禁じます。
※この会報の印刷には大豆インキを使用しています。
PRINTED WITH SOY INK このリーフレットは環境対応、大豆油使用インキを使用しています

Y
+
M

You & Mochizuki

望月印刷株式会社
東京都台東区浅草橋5-7-10
PHONE：03-3851-9281

Debut!

varietyjapan.com